

1971年8月7日 第3種郵便物認可（毎月6回 1の日・6の日発行）

2008年12月3日発行 SSKA 増刊通巻第6426号

SSKA

ああるぴい

RP三重支部会報第12号

—◇ はじめに ◇—

20年度においては難病の施策がいろいろと取り入れられてきました。
これも毎年約80万筆の署名が国にとどき、それらが現実味を帯びてきました。

1. 難病対策

経済財政改革の基本方針 2008 について
閣議決定

2. 社会保障の機能強化のための緊急対策 ～5つの安心プラン～

上記のものに、初めて難病という文字が入りました。

これも先人の方々の努力によるものだと思っています。
今年も地道に私たちの会も署名運動をしていきたいですね。

目次

1. 新春交流会のお知らせ
2. 国際交流野外パーティーに参加して 小川 明美
3. 秋の野外交流会を終えて 小川 裕子
4. 母校へのゲストティーチャー 小川 正次
5. 点字を読めるようになった 川崎 新子
6. 無錫市濱湖区との交流会に参加して 河原 洋紀
7. ユース夏合宿実行委員奮闘記 桜井 将人
8. おもしろ昔話 服部 芬
9. モリタリングツアーに参加して 肥留間 英美
10. RPのいろいろな行事に参加するようになって 森田 ノブエ
11. 入院体験 森田 ミヨ子
12. 平成20年度議案書

日本網膜色素変性症協会三重支部（R P 三重）会員の皆様へ

支部長 河原洋紀
松阪市岩内町6 1 4
電話：0 5 9 8－5 8－2 6 6 4
Eメール：hk2664@aqua.ocn.ne.jp

新春交流会 開催のご案内

師走も残すところあと僅かとなりました。新春を間近にひかえ、なにかとお忙しい毎日をお過ごしのことと思います。

日頃よりR P 三重の活動には格別のご理解とご協力をいただき厚く御礼申し上げます。
さて 恒例の新春交流会を今年は潮の香り漂う南国の樂園志摩の国で開催いたします。
山海のご馳走を味わいお互い同病相い励ましおおいに語りあおうではありませんか。
はじめてのかたもすぐに友達になれます。どうかふるってご参加ください。

記

- ◎ 開催日 平成21年1月25日（日曜日）
- ◎ 集合場所及び時間 近鉄志摩磯辺駅 改札口午前10時 集合
- ◎ 開催場所 志摩ロッジ
志摩市磯部町恵利原 電話0 5 9 9－5 5－0 2 2 5
- ◎ 会費 4 0 0 0 円
- ◎ 申し込み期限 1月15日までに 地区役員まで お申し込みください。
- ◎ 日程 10時 志摩磯部駅改札口集合 送迎バスに乗車
10時30分 開会
10時45分 朗読ボランティア「ピッコロ」による
地元志摩に伝わる昔話、民話などの朗読ライブ
12時 懇親会
14時30分 閉会 バスにて 志摩磯部駅へ
- ◎ 当日の緊急連絡先 090-7696-7499（河原）
- ◎ お願い R P 会報でもご存知のことと思いますが、研究助成資金捻出のため寄付金募集を行っています。三重支部では 会員持ち寄り品のオークションにより資金調達を行うこととなりました。つきましては、新春交流会にそれぞれ品物を持ちより、オークションを行います。みなさまのご協力をお願いします。

なお、地区担当は下記のとおりです。(一部移動あり)

県北部の女性会員 小川裕子 0593-82-0020
o-hiroko@mecha.ne.jp
県北部の男性会員 佐藤好幸 0594-31-4041
yoshiyuki5110911@yahoo.co.jp
津・亀山地区 肥留間英美 090-7435-6754
hdemitan@ma.mctv.ne.jp
久居一志・伊賀地区 桜井将人 090-3389-5598
mogu_dream@ybb.ne.jp
松阪・飯南地区・紀勢地区 辻本和仁 0596-64-0044
motchin1@amigo2.ne.jp
伊勢・度会・多気地区 木村靖子 0596-52-0811
yasuko-k@triton.ocn.ne.jp
志摩・鳥羽地区 小川正次 0599-43-2523
sanryoin@poplar.ocn.ne.jp

◎便利な電車

桑名方面からは、近鉄鳥羽行急行があります。

桑名 7:52,四日市 8:05,白子 8:21,津 8:32,中川 8:45,松阪 8:54
宇治山田 9:11 鳥羽 9:32 着のりかえ 9:35 発,志摩磯部 10:00 着

桑名方面からは鳥羽行き特急もあります。

桑名 8:06,四日市 8:18,白子 8:30,津 8:42,中川 8:51,松阪 9:01
宇治山田 9:15 鳥羽 9:25 着のりかえ 9:31 発特急,志摩磯部 9:48 着

主催 日本網膜色素変性症協会三重支部

共催 三重県難病相談支援センター

8月24日（日曜日） 良いお天気でもとても暑い日でした。

松阪市森林公園にて、12時から15時まで、世界の文化や暮らしをもっとたくさんの人に知ってもらいたいという思いから松阪方面に在住の若者達、日本の人もイギリスやベトナム・中国やアルゼンチンなどたくさんの国々の人たちが「国際交流インディアンエレファント」を2005年4月に立ち上げたそうです。

その活動の一端として、今年で4回目のバーベキューパーティーに私達 RP 三重の仲間も参加させてもらいました。野外で巨大鉄板を囲み、たくさんの外国の人達と一緒に楽しい一時を過ごさせてもらってきました。

焼きそば・タイグリーンカレー・流しそうめん・韓国ちぢみ・焼肉・おにぎりなどたくさんごちそうになってきました。やっぱり日本人はおにぎりやそうめんがお好きなようでした。なのに焼きそばもタイのグリーンカレーもチヂミもおかわりしました。

満腹になって木陰の芝生に寝ころんで一休み。すやすやいびきが聞こえたかも知れません。自然にも恵まれたとっても良いところでした。

ブラジルサンバ・中国民族舞踏・フラダンス・ジャグリングなど、そして外国人による自作自演の漫才もたのしませてもらってきました。外国の幼い子供さん達の踊りもとてもかわいいとガイドヘルパーさんが教えてくれました。

スペイン村で働いているエンターティナー ジャグラーのラケールさんがお友達と一緒に来てくれていました。そして私達と一緒にカメラに向かってピース・バター・チーズとニコニコ笑顔で記念写真におさまってくれました。



秋の野外交流会を終えて。 小川裕子

11月3日 文化の日 鈴鹿市神戸公園にて34名の参加者で行われました。

当日の朝 私は傘、夫はスコップを片手に神戸公園を出発。犬の散歩の置き土産を踏みつけて
転んでは大変と、かたづけながらマナーの悪さに フンガイ しつつ駅に到着。

賑やかな声と笑顔を向えて いざ 出発。

2キロ余りの道を 足取りも軽く、おしゃべりと心地よい秋風を受けながら 到着。

神戸生まれで神戸育ちの夫に頼み込んで 神戸城の歴史話を聞く。

「春の小川のメダカ」と自己紹介して爆笑。 歴史の話よりこちらが残ったのではと、心配する妻の私。

午後の交流会のテーマは「視覚障害者の生活の資質向上」について話し合いました。自己紹介をかねて 今困っている事や 楽しんで取り組んでいる事など語りあいました。

点字や パソコンで読書を、 歌や詩吟に民謡にと、又家庭菜園に取り組んでいる人の楽しみや困っていることなどなど

難聴と視覚の二つの障害をもつ青年が旅と写真を楽しんでいるとか、驚いたのは書道教室に入ったとか。それを話す時のこぼれんばかりの笑顔と自信。

同じ病を共にする者同士が 心の内を語り合い 思いっきり笑いあい それはそれは楽しい一日でした。

後の時間は 山下タカ子さんのハーモニカ演奏と共に歌い、穏やかで、暖かい秋の日ざしに包まれて幸せな時を過ごしました。

今年91歳で亡くなった絵本作家 ターシャの遺した「喜びは自分で作りだすものよ」の言葉を思いながら家路につきました。

ご協力いただいた皆様有難う御座いました。



母校へのゲストティーチャー 小川正次

J R P S の行事にはご支援ご協力を頂き役員の 1 人として感謝致すと共に厚くお礼申し上げます。

11月3日の「秋の野外交流会」や夏には「国際交流会」に参加して、担当してもらった方々の御苦勞もあり、とても楽しくさせてもらってきました。

このように参加して味わう事が出来る喜びは、まず出かけてもらって参加して頂くことです。今後の行事にも許される事ならばご参加願いたくお願い致します。

さて、11月6日に私の母校である盲学校へゲストティーチャーとして招かれて講師として教壇に立って来ました。

1時間以上の1人で話す事は初体験です。いかなることだろうか。と不安と恐怖におののかされながら講演に入りました。しかしスタートをすると心も静まり経験を話すのみなので、難しいことはなく、話せました。内容はともあれ勤められたと言う安堵の気持ちに肩の荷物の下ろせた満足感にひたっています。

しっかりとRPのPRをしてきました。1人でも在学生から私たちの仲間が入会してもらえればいいのになあ。と期待しています。

皆様の中にもいろんな方面で招待されて参加されておられる人もあろうと思います。狭い枠内に閉じこもり生活するのではなく、どしどしと人の集まる所や催し物には極力参加することによって今まで見えなかったことが見えて新しい発見もあることがあります。

私も小学校などの学校訪問や市の催し物などに出席して何かを見つけ心開く事が多いです。外出のチャンスが巡って来たときにはそれを逃さず、まずは飛び込んで参加できれば良いのではと思います。

この盲学校への講師として体験してきた事は元より、学校に行くに当たり、全盲であっても電車に1人で乗り行って来られたと言う喜びも盲人であってこそ喜べる達成感です。

外出時には電車での移動が主です。この電車での乗換の対応は駅従業員の温かい誘導が徹底されており、本当に安心して出かけることが出来ます。

もしも外出時を躊躇しておられる方がありましたら電車であれば駅員さんに「手を貸して下さい。」と勇気を持ってお願いして下さい。それは丁重にガイドして下さいますよ。

先日東海北陸リーダー研修会に役員が静岡へ行って来ました。その時も各駅では駅員さんに連なり、5人も引き連れて新幹線に乗って行ってきたのですよ。

見えない現状は今の時点では治ってもらいたいと望むよりも、見えなくとも楽しく生きられる事を探して前向きに共に生活をしていきましょう。

点字を読めるようになった 川崎新子

点字と関わり初めてもう10年ぐらいになります。
やっとなんとか読めるようになりました。
最初に点字と出会ったのは、ボランティアの点訳入門でした。
病気を知り不安な毎日を過ごすのならいずれ必要になる点字を覚えようかと公民館に講座に入りました。そこで打つことを覚えましたが、そのうち本を読みづらくなりやめました。
盲学校でも夏休みに特訓を受けましたが、主婦の私には忙しくて読む暇がありませんでした。
卒業してから宮本治子先生に声をかけていただき、現在にいたっています。
若い時と違って少し怠けるともう振り出しの連続でした。
それでも根気よく先生が励ましてくださり2年たつと文章が読めるようになりました。
今では図書館で点字の本を借りて読む楽しみが出来ました。
これも先生とボランティアの暖かい励まし、またお友達との交流のおかげです
本当に嬉しく感謝です。

無錫市濱湖区との交流会に参加して 河原 洋紀

平成20年10月21～24日

21日の早朝松阪港から高速船に乗り、中部国際空港を8時に出発して一路上海へ。飛行時間は約3時間（時差が1時間）、午前12時前に着きそれからは高速道路で約3時間かけて無錫市に着き、琵琶湖の18倍の大きさの太湖の遊覧をしました。ここは日本でヒット曲になった「無錫旅情」の舞台となったところです。有名な鹿頂山もあり曲の創意もよく目にうかびました、その後ホテルに行きました。

22日は、私は松阪市障害者団体連合会の代表として濱湖区の障害者施設で交流会があり、皆様と別行動の一日でした。

朝8時30分に政府の方がホテルに迎えにきて下さり、9時に〇〇〇〇センターを訪問させていただきました。〇〇〇〇センターはこちらで言えば障害者福祉センターのようなところです。

センターに通所して見える全員が太鼓などの楽器を奏でながら大歓迎をして下さり、入り口は赤いじゅうたんをひいていただき、すごいもてなしでした。

最初は視覚障害者の人のセンターでの仕事の紹介、次は知的障害者の仕事をしているところに案内していただき、そこを見学、その後聴覚障害者の方の仕事も説明していただきました。

一通り説明の後、二階の交流室で関係者同士の交流会の始まりです。そこで私は、パワーポイントを使って松阪市のバリアフリーの状態をいろんな切り口でお話をさせていただきました。

午後からは太湖の湖畔の高台に友好締結の記念の植樹会でした。私も松阪視覚障害者協会の代表として植樹をしてきました。この植えた桜の木が生長して、花が咲いたとき、訪れた人々は松阪視覚障害者協会のプレートが目につくこともあるでしょう

また、桜の花が太湖の湖面を白く写す時、日本と中国の障害者同士の交流の花が咲くことを願わずにはおられない心境になりました。

夜は、政府主催の晩餐会でした。

23日は靈山大仏寺の見学でした。お釈迦様の直立像は高さ88メートル、その前の蓮の花が午前10時になると自動的に咲きその中から5メートルぐらいの仏様の像が現れその像に向かって噴水がでて何とも言えない荘厳な感じでした。

宗教は禁止の中国にあって、その前で手をあわせている人々がたくさんみえました。

午後はまた高速道路を使って一路上海です。でも高速道路と言っても、地面はごつごつの片側2車線でよく渋滞もしています。それに、市と市との境界では必ず料金を支払わなければいけないのでした。

夜上海蟹を食べに行きました。

24日 玉仏寺を見学して、おみやげの店に寄り、午後3時に空港に入り、午後12時ごろに松阪につきました。

☆交流会について

中国にも障害の等級があり1級から3級まであります。

障害者センターの役割については、社会復帰が目的のように感じられて、創作活動など（趣味

みたいなこと) はあまりありませんでした。

年金について、障害者は年金を月300元～530元ぐらいをもらって見える方があります。大学卒の初任給は1000元です。

私が行った時のレートは1元は16円でした。

☆私が感じた中国について

上海では、歩道には点字ブロックもありスロープもありました。でも色は歩道と同じ色でスロープの勾配はきつかったです。

それは大都会だけのことで、無錫市にはなかったです。それと障害者と言っても特別な助けもありません。例えば私の付き添いが私から離れた時、大勢の中国人がそばにいてもサポートしてくれる方はいなかったです。

中国での、入国、出国に関してもなにも助けがありませんでした。

ユース夏合宿実行委員奮闘記 桜井将人

今年で3回目を迎えるユースのビックイベントの、「夏合宿」(7月19日、20日、新横浜のあゆみ荘で開催)があります。

そして企画、運営をしている実行委員は、今まで関東在住の方が、やっていたのですが、今年から関東以外の方も、実行委員を募集する事になり、私は自ら実行委員を志願し、神奈川2人、東京4人、大阪1人、三重1人の8人の夏合宿実行委員が、今年の1月からスタートしました。

実行委員の会議は、インターネット電話の「スカイプ」を利用し、月1回のスカイプ会議と、関東組の方だけ、東京に集まって、月1回会議&宴会ですすめていきました。

私の担当は、盲人の第3の目の「白杖」の正しい使い方を知らない方が多いと思います。持つ持たないは、本人に任せて、「白杖」の素晴らしさと、便利さを少しでもわかってほしくて、参加者の前で手引きを交えて私が白杖を使って簡単な歩行訓練を、教える事になりました。

プログラム名は「レクチャータイム 誘導したり、されたりする事に慣れよう」に決まりました。

アイパートナーの戸松さんに、月1回の自宅周辺でやる私の歩行訓練の終わった後、どんな感じで教えればいいか、戸松さんに教えてもらっていました。

夏合宿でやるレクの「伝言ゲーム」も担当する事になり、プログラム名も「伝言ゲーム」ちゃんとしっかり伝えてよ!!にしてサブ担当の方と、連携をとって100円均一で道具を買い、伝言ゲームの文も考え本番に挑みました。

ここでサブ担当の方と考えた伝言ゲームの文2つ紹介します

1. 1969年7月20日、アポロ11号のアームストロング船長が、人類が初めて月面に降り立った時、「この一歩は小さいが、人類にとっては偉大な一歩である」と言った
2. 「生むぎ 生ごめ 生たまご」 「生レバ 生みず 生ビール」 「なまはげ 生意気 まな娘」

そして夏合宿本番の7月19日を迎えました。

当日は、参加者は新横浜新幹線改札口に、11時に集合でしたが、私の担当する歩行訓練が、プログラムの一番最初で、まだサブの方と、打ち合わせをやってなかったので、朝の9時半に新横浜の新幹線改札口に待ち合わせしました。(鈴鹿に朝の5時半に出発しました) 関東組の実行委員は、参加者が来るまで、あゆみ荘で準備と、設営をして、私は歩行訓練の打ち合わせをしていました。

そして参加者が来て夏合宿スタートし、まず私の担当するプログラム「歩行訓練」が始まり打ち合わせの時はうまい事いったのに、本番は参加者の前でやると、極度の緊張し、ガチガチになり、思うように教えられず終わり、「あああ～～ちゃんと出来へんだあ～～」と終わった後心の中で悔やんでしまいました。

そしてレクや宴会2次会など、大いに盛り上がり一日目無事終了し、二日目スタートし私が担当する「伝言ゲーム」が始まりました。しかし又問題が起こりサブの担当の方としっかり打ち合わせをするのを忘れて、始まる前の休憩の10分しかできず、ほとんどぶっつけ本番の状態でする事になりました。私も自分なりにしっかり盛り上げ、サブの方も最初から予定がなかった罰ゲームを、進行中思いつきで考えてくれて、予想以上に大いに盛り上がりました。

そして、すべてのプログラムが終了し、最後にクロージングの感想発表の時参加者から、「伝

言ゲームは、一番面白かった」と、聞いた時は、もう涙が出るほど嬉しく、今までの苦勞が吹っ飛びました。

今回は初めて夏合宿に参加するのではなく、実行委員になり、他の実行委員の皆と半年間、企画運営をして、かなりの苦勞もありましたが、いろいろ学び成長し、実行委員をやってよかったと心から思い、又機会があれば又やりたいと思い、ユース実行委員で学んだ事は、支部の役員で生かしていきたいです。

そして、来年12月末をもって年齢制限の関係で、ユースを卒業する事になりました。

だから再来年から、JRPSで私は若者から、おっさんになります。

あと1年間ですが、生涯思い出が残るくらいのユースの活動をしっかりしていきたいと思います。

おもしろ昔話 服部 芬

きつちよむさんのとんち話

昔昔、ある所に、とてもとんちのきくきつちよむさんと言う男がおったそうなの。
きつちよむさんの家には、年をとった馬が一頭おった。
きつちよむさんは、何とかしてその馬と元気のよい馬と、
取り替えたいものだと考えておった。
きつちよむさんは、いい事をおもいついた。
或る日の昼下がり、その、年をとった馬を連れて、川べりまでやって来た。
そして、馬を川べりの土手の木に縛り付けると、持ってきたザルを馬の尻の下にかざして、
馬が糞をするのを待っておる。
そこを通りかかった旅の男が、何をしているのかと不思議に思い、
きつちよむさんに声をかけた。
「もうし、おまえさん、いったい何をしとるかね。馬の尻の下にザルなんぞかざして」
すると、きつちよむさんはすました顔で、こう言ったもんだ。
「なあに、馬が金をひるのでな、それを受け取るのに、
こうしてザルで受けておるのじゃよ。」
それを聞くと、旅の男は、驚いたのなんのって、
「な、何だって、馬が金をひるだと、そ、そんなバカな」
そうこうしている間に、馬が糞をひった。
きつちよむさんは、糞の入ったざるを大事そうに、川に持って行くと、
ザルを川の水で振るった。
すると、糞は皆水に流れ去り、ザルには、何と金が五、六個入っておった・。
旅の男は、目をまん丸くして、驚いたのなんのって。
「ほ、本当じゃ、これはすごいぞ、こんな馬は見た事が無い。
おまえさん、この馬は毎日お金をひるのかね。」
「アアそうだよ、もう、だいぶんとたまったわなア。」
きつちよむさんはまたしても、すました顔でそう言ったもんだ。
さあ大変、旅の男はすっ飛んで自分の村に駆けもどった。
たちまちにして、その、話は村じゅうに広まった。
男の村の長者は、その話を聞きつけると、
さっそく男を家に呼び寄せて、男から詳しく話を聞きだした。
長者はすぐさま、下男に、きつちよむさんの所に行って、
その馬を高いお金で買い取ってくるように言いつけた。
下男はすぐさまきつちよむさんの家にやって来ると、
きつちよむさんの馬を買いきたいと、申し出た。
きつちよむさんは、おかしいのをこらえて、こう言った。
「アア、売ってやってもいいが・・・
この馬は、何しろ金をひるめずらしい馬だからなあ、ちよつとの金では売れねえ。」
下男は、長者から預かったお金の袋をふところから取り出すと、

きつちよむさんに見せながら、こう言った。

「だんな様からこれだけのお金を預かってきただが、これだけでは足りないかね。」

きつちよむさんは、ニヤニヤしながら

もったいぶってこう言った。

「そうだなあ、それほど頼むなら、仕方がないのう。」

下男は大喜びで、年取った馬をなでながら、

「いやありがたいことじゃ。ささ、これを受け取ってくださいや。」

下男は、きつちよむさんに、おかねの

袋を押し付けると、年取った馬を連れて長者の待つ村へと、帰って行った。

きつちよむさんは、長者に年取った馬を売った金で元気のいい若い馬を買う事が出来た。

暫くしてから、長者の下男があわくってきつちよむさんの所にやって来た。

「もうし、きつちよむさん、あの馬のことじゃがのう、おまえ様に

言われたように、ちゃんとえさをやっておるのじゃがな、始めのうちは

お金をひっておったんじゃ・・・。

ところが、この頃ちっとも錢をひらんでなあ一体どうしたもんじゃろうなア。」

下男は、しきりと首を横にふった。

きつちよむさんは、すまして言った。

「おまえさん、本当にちゃんとえさをやったかね、えさの中に錢を混ぜてやっ取るかね。」

「下男はきつちよむさんの言葉に耳を疑ったもんだ。

「な、何だって、えさに錢を混ぜるんじゃとな。」

「きつちよむさんは、ニッコリ笑うと、またまたすまして、こう言った。

「おおそうじゃ、なんぼ偉い馬でもくつちよらんもんは
糞に混ぜてひらんじゃろうて、はっ、はっ、は。」

「ひええ。」

下男のめん玉がひっくり返ちまったとき・・・。

おしまい。

私は10月22日、23日、24日の三日間に島根県松江市でおこなわれた視覚障害者を対象のモニタリングツアーに参加させていただきました。参加者は女性6名、男性4名の10名です。そのうち女性4名は盲導犬使用者です。

まず最初の感激はJR松江駅に待っていてくださったKMさん、YMさんおふたりとこのツアーと一緒に参加のSIさんとの初対面でした。松江駅にお忙しいのに来て下さったのはメーリングのお友達で、このツアーの情報をお知らせくださったかたです。そしてSIさんもメーリングのお友達です。地元のJRPSの仲間のあたたかい出迎えにとてもうれしかったです。

松江市は開府400年祭がおこなわれていて、松江城が5年間という短い年月で築城されたこともありこの5年間いろいろな障害者を対象にバリアフリーの取り組みをされていかれるようです。松江市では高齢者や障害者をはじめとするすべての人が安全に安心して差別なく快適にすごすことのできる国際文化観光都市松江をめざし（松江市、人にやさしい町作り条例）を制定されました。（国際文化観光都市松江のおもてなし）が基本方針のひとつであり、松江をおとづれるすべての人が快適にすごすことができるよう観光バリアフリーの取り組みをしておられます。

NPOプロジェクトゆうあいと松江市観光課、観光ガイドボランティアの方が私たち視覚障害者の手引きガイドをしてくださいました。この手引きガイドの講習を一日でおぼえられたとのことでした。それで初めは大変緊張されていましたが、だんだんになじんでくださってなごやかに歴史のガイドをしながらスムーズに手引きガイドもしていただきました。松江城は石垣の高さ、しゃちほこの説明や歴史。天守閣にもものぼりました。堀川遊覧は橋がひくいため、船の屋根を下げます、それにあわせて私たちも頭をさげるのが4箇所あり、楽しかったです。宍道湖温泉宿泊。

23日はホーゲルパークです。200メートルくらいの動く歩道で山頂に向かいます。展望台から眼下に、宍道湖西にいつも空港、出雲大社。左に中海が見えているようです。ふくろうのショーでは、私が持った輪をくぐる時風を感じました。県立美術館では、外に出た所にウサギのオブジェがあります。そこから夕日スポットにむかいますが、あいにくの曇り空でみれませんでした。玉造温泉宿泊。

25日宍道湖遊覧船白鳥号でクルージングを楽しみました。午後からはNPOプロジェクトゆうあいの事務所がある施設で松江市観光バリアフリーモニタリングツアーの意見交換会です。松江市長を初め、旅館、バス、電車、タクシー、ホーゲルパークの関係者も大勢参加でびっくりしました。松江市観光バリアフリープロジェクトに対する熱心な気構えがよくわかりました。松江駅に触地図、展示物のレプリカ。歩道に飛び出している植え込みや看板。エレベーターや駅構内の点字。音声案内など、たくさんの意見が出ていました。NPOプロジェクトゆうあいにお問い合わせれば、視覚障害者だけのグループ旅行も受けさせていただくとのことでした。島根県はかなり遠いですがもう一度行きたいと思いました。私は大変よい体験旅行をさせていただきました。

R Pのいろいろな行事に参加するようになって・・・ 森田ノブエ

私は若い頃から家事や趣味の洋裁・編み物・手芸をして過ごすのが好きで平々凡々な生活をしておりました。最近は少し視力も落ちて何もしておりません。

3年半前に主人を亡くし人生が真っ暗になりました。二人の子供もそれぞれ独立しているので、一人で頑張っております。

R Pの行事もあまり参加していなかったのですが、一度二度参加するようになって、皆様の屈託のない明るい笑顔、また楽しいおしゃべりを聞き、この人達も同じ病気で戦っている同士だと思い、前向きな姿に感激しております。

先日の秋の交流会を企画してくれた役員の方・お世話下さった小川裕子さんご夫妻、本当に楽しかったです。最近おおきな口を開けて笑うことがなかったのですが、久しぶりに寂しさを忘れて腹の底から笑うことが出来ました。亡き主人を思い出し落ち込んだ毎日でしたが生きる元気と勇気をもらいました。参加して良かったです。

これからは出来る限り行事に参加して皆様の輪の中に入れていただくつもりです。今から新春交流会を楽しみにしております。

寒さも厳しくなってきます。会員の皆様も風邪など気をつけて頑張って下さい。

入院体験 森田ミヨ子

10月に高熱のために、病院に行き腎盂炎でそのまま入院になりました。先生は「個室にしましょう」と言われました。私は個室は寂しいから他の人と一緒に大部屋にお願いしました。病棟の看護師さんが視覚障害の方が入院と聞いたので見に来ましたと言われて大部屋を希望している私にご主人が付き添ってくださるのですか？と言われました。きっと手のかかる病人だと思われた事でしょう。私はすぐに、「いいえ1人で入院させてください。」と言いました。見えないとなんにもできないなんて、思われてはいけないと思いました。視覚障害者の事を分からない人に分かってもらおうと、突然病人の私は張り切って宣言したのでした。それから11日間の入院が始まりました。人と話がしたいと思って大部屋を望んだのに部屋は4人部屋だけど人の声も気配もしません。それで主人に「誰もおられないの？」と聞いたら満室だといいます。他の人は物音も立てないで静かに眠り続けている人達でした。点滴が付いていた私なのでベッドのそばにポータブルトイレを置いてもらいました。私は一人でも全然不安はなかったのです。「ご飯は一人でも食べられますか？」こんな事も気にかけてもらっています。24時間の点滴のとき3日間は静かにベッドで過ごしました。点字の読みかけの本を持ってきてもらって、点字の本を読むとても良い時間でした。点字の本を見て看護師さん達が感心しておられました。この一ますの中に6点があり、50音の字があるなんて、それに文章が綴られて入ることが不思議です。私が始めて点字に出合ったとき凄いと感動したときのことを！思い出しました。すごいですね。こんなのが指先で読めるなんて、始めて点字を見た、とかいろいろ言う看護師さんがほとんどでした。自分が置いたものはなんでもわかるけど主人が置いていってくれたものはわからないので看護師さんに目を貸してもらっただけで、全く不自由を感じることはなかったです。24時間点滴も取れて一日2回の点滴に変わったのでやっと一人で動けるようになりました。自分でトイレに行くために、主人に一度連れて行ってもらったととても近くで分かりやすくて次からは、1人で行きました。見える人には、突き当たるとか、そこはだめとか気になるみたいです。私は杖で当たりながら、場所を確かめて歩いていることを理解してもらおうと思いました。トイレには換気扇の音がしていて、危ないところは全く無くてすぐにすいすい行くことができました。洗面所にも教えてもらったら行くことができると思ったのだけど、いろいろ心配かけてはいけないと思ってお手洗いの所で我慢して洗面をすることにしました。ベッドの上での歯磨きやふいただけの洗面よりもずっと気持ちよかったです。ほとんど手のかからない私だと言ってもらっているように聞こえてきました。外で話している声「森田さん見えているのではないの」という声です。

凄い私は見えている人くらいちゃんと出来てるのだと想いました。

見えなくても気持一つでなんでも自分で出来ることをわかってもらおうと思いました。

物を落としたり、手が触れないで見つからない物を看護師さんに探してもらっているうち見えてないことがわかって、いままでの思いがかわったと言われました。

手助けがちょっと有ることでどれほど助かるかと言うことがわかってもらえたと思います。

視覚障害者の人達との出会いがあったから今の私があることを分かってもらえてとてもよかったですと思いました。

もし仲間の人達との出会いがなかったらきっと今ごろ家の隅っこで暗い人生をおくっていたと思うと、ゾーとします。見えないことで声だけで判断していた私は看護師さんの声を珍しい男性の声だと思って「男性の看護師さんですね」と言ったら、「私は一応女性です」と言われて、あわてて「ご免なさい」と平謝りしました。

もっと最悪なのは、始めて先生が回って来られたときに、足音だけで主人と思い違えてしまいました。

「父さん！」と言って声をかけたら「違います鈴木です。」と言われたので知り合いの鈴木さんを、頭でさがしていたら「医者です」と言われました。一度だけしか話していない先生の声も名前も知らなかったので全くわからなかったのです。と言うことで、私の希望の話し相手はなかったのだけど大部屋の一人暮らしは、読んだり書いたり病人とは思えない貴重な時間を過ごすことができました。

そしてちょっとでも視覚障害者は何も出来ない人ではないと言うことをわかってもらえたと自己満足して退院することができました。

看護師さん達に私達の方がもっと勉強しないといけない世の中が変わったとか言われて嬉しかったです。それで私は退屈もしないで満足の入院生活を送ることができて、思い出の1ページになりました。

そして今以前と同じ元気な毎日を暮らせてもらっています。

第13回R P三重総会議案書

1. 平成19年度事業報告

下記の行事を主催または共催し参加しました。

日時	用件	場所	参加人数 (会員)	付き添い 等
4月3日	難病相談	難病センター	支部長	1名
4月7日	役員会	アスト津	6名	3名
4月15日	NPO法人三重難病連の理事会	難病センター	支部長	1名
6月3日	定期総会	福祉会館	41名	
6月5日	難病相談	難病センター	支部長	1名
6月5日	NPO法人三重難病連の理事会	難病センター	支部長	1名
6月9日	代議員会	大阪市	4名	
6月10日	全国大会	大阪市	3名	
6月14日	なごみネット	松阪県庁舎	支部長	1名
6月17日	NPO法人三重難病連の総会	難病センター	支部長	1名
6月17日	NPO法人三重難病連の理事会	難病センター	支部長	1名
6月21日	県庁への挨拶回り	県庁	支部長	1名
6月24日	理事懇談会	難病センター	支部長	1名
6月26日	NPOの書類作成	難病センター	支部長	1名
6月28日	NPO法人三重難病連の理事会	難病センター	支部長	1名
7月3日	中日新聞より激励金授与	中日新聞三重支局	支部長	1名
7月3日	会計の点検	市民活動センター	支部長	1名
7月4日	自由民主党への要望聞き取り	自由民主党県本部	支部長	1名
7月7日	センター職員の採用試験	難病センター	支部長	1名
7月23日	センター運営会議	難病センター	支部長	1名
7月23日	NPO法人三重難病連の理事会	難病センター	支部長	1名
7月25日	NPO法人三重難病連の監査	難病センター	支部長	1名
7月31日	難病センターの事務引き継ぎ	難病センター	支部長	1名
8月5日	地域相談会	桑名市	3名	1名
8月19日	松阪難病連楽会「国際交流会」	森林公園	8名	
8月23日	NPO法人三重難病連の理事会	難病センター	支部長	1名
8月23日	難病センター運営委員会	難病センター	支部長	1名
9月4日	難病相談	難病センター	支部長	1名
9月13日	難病センター運営協議会	津県庁舎	支部長	1名
9月22.23日	網膜の日参加旅行	静岡市	26名	
9月26日	難病センター運営委員会	難病センター	支部長	1名
10月6日	地域相談会	松阪県庁舎	10名	
10月8日	東海地区リーダー懇話会	名古屋市	2名	
10月20.21日	東海北陸リーダー研修会	氷見市	6名	1名

10月23日	新政三重との懇談会	県議会	支部長	1名
10月23日	相談員研修会	難病センター	支部長	1名
10月23日	県からの要望に対する回答	難病センター	支部長	1名
10月31日	会計監査	難病センター	支部長	1名
11月3日	秋の交流会	青山高原	29名	
11月4日	地域相談会	鈴鹿県庁舎	5名	
11月15日	NPO法人三重難病連の理事会	難病センター	支部長	1名
11月20日	相談員研修会	難病センター	支部長	1名
11月20日	自由民主党県会議員との懇談会	自由民主党県本部	支部長	1名
11月23日	自由民主党国会議員との懇談会	自由民主党県本部	支部長	1名
11月24.25日	東海地区ブロック交流会	志摩市	支部長	1名
12月2日	松阪難病連楽会「忘年会」	松阪市	15名	
12月11日	難病相談	難病センター	支部長	1名
1月22日	NPO法人三重難病連の理事会	難病センター	支部長	1名
1月27日	新春交流会	伊賀市	27名	
1月30日	難病センター運営委員会	難病センター	支部長	1名
2月5日	難病相談	難病センター	支部長	1名
2月24日	プレクストークの使い方	難病センター	12名	
2月26日	相談員研修会	難病センター	支部長	1名
3月11日	難病相談	難病センター	支部長	1名
3月13日	難病センター運営協議会	津県庁舎	支部長	1名
3月15.16日	支部長会	横浜市	支部長	
3月24日	センター運営会議	難病センター	支部長	1名

☆10月に会報10号を発行

2. 平成19年度決算報告

収入の部

項目	詳細	金額
前年度繰越金		36,175
本部より	支部支援金	50,000
寄付		20,000
総会参加費		18,200
弁当代		21,600
懇親会参加費		66,500
会員からの寄付		12,080
QOL対策費	(本部より)	20,000
難病センターより		50,000
東海テレビより		50,000
世界網膜の日の参加旅行へ	基金より	100,000
パンの売り上げより		60,000
難病センターより		60,000
新春交流会の参加費		108,000
寄付		20,000
収入の部	合計	692,555

支出の部

項目	詳細	金額
役員会行動費		16,990
岐阜支部設立総会行動費		5,920
総会	印刷費	3,012
	通信費	2,800
	講師謝礼	87,000
	講師の食事など	3,639
	弁当など	24,800
	会場使用料	24,180
	ボランティア交通費	11,683
	懇親会の食事代	64,830
	お茶代	1,239
三難連会費		20,000
桑名での地域相談会の行動費		1,440
世界網膜の日のバスツアー	印刷費	1,140
	通信費	2,480
	補助	110,553
秋の交流会	印刷費	1,725
	通信費	2,480
東海北陸リーダー研修会の行動費		102,590
鈴鹿での地域相談会の行動費		1,560
会報	印刷費	4,467
	通信費	1,410
支援会員へのカレンダーの郵送料		1,740
新春交流会	残金（研究基金へ寄付）	14,760
	講師への謝金等	17,400
	ボランティア交通費	9,640
	食事代	93,240
勉強会	講師への謝金等	26,000
基金へ		33,837
支出の部 合計		692,555

差し引き 収入 (692,555) — 支出 (692,555) =0

3. 平成20年度事業計画（案）

日時	用件	場所
4月1日	難病相談	難病センター
4月17日	NPO三重難病連の理事会	難病センター
5月1日	役員会	三重県視覚障害者支援センター
5月7日	NPO三重難病連の理事会	難病センター
5月18日	膠原病友の会「15周年記念大会」	津県庁舎
5月22日	NPO三重難病連の総会と評議員会	難病センター
5月22日	NPO三重難病連の理事会	難病センター
5月25日	JPAの総会	東京
5月26日	国会行動	東京
5月26日	JRPSの代議員会の事前打ち合わせ	東京
5月31日	代議員会	東京
6月1日	津地域難病相談会	津県庁舎
6月4日	難病相談	難病センター
6月22日	定期総会	松阪市福祉会館
7月4日	研究倫理委員会	三重大学医学部附属病院
8月3日	四日市地域相談会	四日市市立勤労者福祉会館
8月24日	国際交流会	松阪市森林公園
9月2日	難病相談	難病センター
9月7日	熊野地域相談会	熊野保健福祉センター
9月28日	研修会「歩行について」	場所は未定
10月5日	伊賀地域相談会	伊賀県庁舎
10月25.26日	東海北陸リーダー研修会	静岡市
10月28日	難病相談	難病センター
11月1日	伊勢地域相談会	伊勢県庁舎
11月3日	秋の交流会「四季の道」	鈴鹿市
1月25日	新春交流会「朗読ライブ」	志摩市

4. 平成20年度予算（案）

収入の部

項目	細目	金額
本部より支部支援金		50,000
QOL 対策費		20,000
総会(参加費)	700円×25名	17,500
総会（弁当代）	800円×25名	20,000
総会（懇親会費）	3000円×20名	60,000
新春交流会	4000円×30名	120,000
難病センターより		110,000
寄付		50,000
雑収入	パンの売り上げなど	30,000
合計		477,500

支出の部

項目	細目	金額
役員行動費		90,000
総会の印刷費		3,000
総会の通信費		3,000
総会の講師謝礼等		76,000
会場使用料等		25,000
ボランティア交通費等		10,000
懇親会費	3000円×20名	60,000
三重難連の会費		20,000
会報の印刷費		4,000
会報の通信費		1,000
新春交流会の印刷費		1,000
新春交流会の通信費		2,000
新春交流会の講師の謝礼等		10,000
ボランティア交通費等		10,000
新春交流会の食事代		110,000
勉強会での講師謝礼等		20,000
勉強会のボランティア交通費等		5,000
事務費		5,000
予備費		22,500
合計		477,500

5. その他

① 代議員の推薦について

1971年8月7日 第3種郵便物認可（毎月6回 1の日・6の日発行）
2008年12月3日発行 SSKA 増刊通巻第6426号

SSKA

ああるぴい

—◇ 編集後記 ◇—

1. 新春交流会のお知らせでも書かせていただきましたが、当日に、オークションをさせていただきます。都合がつかなくて参加できない方でも、私宛に遊休品を送ってくだされば、当日のオークションにかけさせていただきます。

2. 昨年8月から難病相談支援センターに毎水曜日に行っています。
もし何か相談したいことがありましたら是非電話をください。
TEL 059-223-5035

3. メールをされている方で、まだ支部長までメールアドレスを連絡していただいていない方は、是非連絡をお願いします。メールだと経費と時間が大幅に短縮されますので、ご協力をお願いします。

4. 新春交流会に、是非参加してください。

発行人：障害者団体定期刊行物協会
東京都世田谷区砧6-26-21

編集：RP三重会報編集部 河原洋紀
〒515-0847
松阪市岩内町614
(電話・FAX) 0598-58-2664
(e-mail) hk2664@aqua.ocn.ne.jp

定価200円